

多可郡杉原谷村のセコイヤについて

田 中 兼 治

数年前杉原谷のアメリカスギという名で地方新聞に出た事があつた。その時は別に気にしなかつたが昭和27年12月16日付の神戸新聞に稍々わしい記事となつたので早速杉原谷の生徒に頼んでその小枝を取寄せて見た。入手したのは確か19日であつた。

昭和28年の1月11日同村の生徒大江清君の案内で実地調査の為セコイヤの生育している杉原谷村蘆の東賀与一氏を訪ねたが運悪く留守で令弟の東賀左右衛門氏と令息庄治氏の好意で木の大きさや由来について聞くことが出来た。

なお満足が出来なかつたから18日(日)に再度東賀氏宅を訪れ直接老翁東賀与一氏(80才)に会つて色々懐旧談と共にアメリカスギの由来を聞くことが出来た。東賀氏は明治33年ふとしたことから渡米されて昭和15年に帰国される迄在米期間40数年、その話によると「その在住記念にアメリカの物を何か植えたいと思ひ色々考えたがアメリカの駅ではよく松の実(ペインナツ)を日本に於ける落花生の様に袋に入れて売つてゐるのに気が付き、若しこれが日本でもよく繁殖すれば実も材も利用出来るので産業上大へん役立つからと思ひ早速ペインナツを沢山郷里杉原谷へ送つた。そうして後藤という方に世話を頼んだが播種後殆んど発芽して甚だ成績がよかつたそうだが、横枝がモジャモジャ出たのでこんなわけのわからぬ木を日本で大きくした処でとても使い物にはなるまいとて2年もたたないうちに皆抜いてしまつたとの事であつた。

その後カムツリーという木の種子を手に入れた。これは多分1925年だつたと思ふがこの木はサンフランシスコから約10マイル程の所にあるセコイヤパークという国立公園の木でここではカムツリー(セコイヤ)の大樹がものすごく生育して保護されている。なおヨセミテパークという国立公園には更に大木があつてその内特に大きいのは御承知の giant-tree と言われるものでこの公園の道路工事中じやまになるからとてこの木の根元にトンネルを抜いたが馬車の2頭立が平気で通れるし自動車も2台平気で交代出来るだけの大きなものであるとの事であつた。」

この2種の内カムツリーというのがセコイヤ雌杉でレッドウッドとも言われる *Sequoia sempervirens* であり、ジャイアントというのがセコイヤ雄杉またはマンモスノキと言われるのやゴマ塩頭の巨木と言われ推定樹令3000年以上と計算されているものがある *Sequoia-*

dendron giganteum dindl である事は花と植物の創刊号にある長谷川勝好氏の記事に依り間違ひはない。さてカムツリーの種子がアメリカの東賀氏から杉原谷に送られたのが今から約28年程以前の事でこの種子も発芽も生育も大へんよくて始めの間は小枝が少なくすくすくと伸びて2年目には3メートル程にもなりまるで草本の様に見えたらしい。土地の人は変に思い出しこんな草の様な木を育てた所が役に立つ様な木にはなるまいとて殆んどぬいてしまつた。荒地の所に若干残つていた分も開墾の時に何の惜し気もなく切つてしまつた様で最後に残つたのが家の附近にある2本と谷向うの小林中に2本だけがスギやヒノキ等の雑林中に残つてゐるのみである。

遠方から眺めても特に大きくかつ葉の色が濃いので他の木とすぐ見分けがつく位で私が直接測つたのは家の近くにある2本で地上150cmの所で周囲が137cmと109cmとあり同時代に植林されたという5m程離れた所にあるヒノキの生育と比較して3倍以上の生育振りである。

樹皮は丁度内地の杉皮を膨らませた様で約3cm程の厚さがあり細く繊維性のあることから令弟左右衛門氏等がこの皮が何かシュロ繩の代用品の様なものにも出来ぬものかと言ひ出し森林組合の岸本氏等もこの木に着眼して種子の採集や発芽実験に力を入れかけ地方事務所の林務課とも協力しかけたのがそもそも地方新聞の種となつたはじまりである。

材質は成育が速い割合に緻密で節目の様に美しく建築用材としては大変有望であるし真直に成育するので電柱用材としても成育年数其他から考察して大へん好適である。地元森林組合では前記の通り苦心の結果種子を採集し某試験場でも発芽試験をしてもらつた処2%の発芽率との事であつたそうだが、今春地元で苗床構築に慎重な注意の上播種した処殆んど発芽して現在20本程の苗が出来ている。明29年は4リットルの種子から3,000本の苗木を育成すると予定をたてている。なお私が測定した2本の根元からは不定芽が沢山でほとんど成長しているし、山林中にある径約25cmの切株の周囲からは約30本の新芽が大小とりまぜて成長している。この杉や檜の切株から新芽がどんどん出る様なことはこの辺では絶対に見られない現象だがこの木では見事に於いて、まるでカキかクヌギの切株のようである。

昭和28年1月11日に行つた時この新芽を沢山取つて来て挿木をして見た処、土も時季もその他の条件が皆悪かつたが3cmもある皮部をくぐつて出たばかりの白い柔かいものは約3ヵ月で枯れたが相当大きくなつたものや大小の小枝を切つたものなどは先端の芽のあるなしにかかわらず皆よくついている。

若し日本の禿山の緑化を考えるなら成育環境が杉原谷の様な処を選ぶべきであるが切株から次代の材が取れるから伐採後の植林の手間が省けるし成長が4分の年数で利用の域迄達するので大変な価値のあるものと確信を抱いている。

多可郡中町の森林王、岸本米太郎氏(県内需要の電柱は全部この人が供給している)の話では電柱用の杉でも現在では殆んど挿木繁殖であつて実生に比べると4、5年間おくれるが5、6年後の発育はずつと挿木の方が成績がよいとの事である。大体電柱用材は挿木で40~50年という所だから若しこれをセヨイヤに代えるなら僅に20年でその域に達するから(杉原谷の実生を見てもわかる)若しセヨイヤ熱を全国的にあげるなら爾後電柱用材の需要は非常に楽になるものと考えられる。

なおセヨイヤの挿木については「山林」174号(1944)に出ている。

それによると挿木は4月中旬苗穂をアルファナフトール醋酸の50000倍液に24時間浸し、よく水洗して挿す。日覆をして余り風の当らない所がよい。また水樹の管理の困難な時はダンゴ挿しも成績がよい。

実生法は11月に取り蒔きにするると発芽率は最もよいが霜柱の立つ様などころではよくないから春蒔にする。覆土は0.5cmにして上からうすく藁で被うておくといふ。

〔付記〕昭和28年1月11日調査の節森林組合の好意により杉原産の Sequoia の堅果と種子、アメリカ産の Sequoiadendron の種子とをいただいたことを付記して感謝の意を表しておく。(28.12.20.田中)



Iは枝で4倍大、IIは種子で4倍大、IIIは4倍である

〔室井云〕ここに載せた図は昭和28年11月15日、田中先生の案内で現場を見ることが出来た時に採集した1枝を岡村はた先生に写生して貰い挿入したもの。

(P221から)

或は熊野川、千種川からとんで産するイワナかが問題となる。もし前者であるとする千種川上流産がもつとも最近内海氏の報告によると西河内の分水嶺を西に越して岡山県英田郡西栗倉村大芽吉井川の上流にも棲息するとのことであるから兵庫県に近い所がそれより以西より発見されなければ分布の西限となると思う。本稿は全く内海一氏御採集の標本と報告によつて記述したもので、同氏に最大の謝意を表する。